

進化する“におい”対策

◆3種の体臭を嗅ぎ分ける日本初の機器開発中

夏本番を間近にひかえ、気温と湿度の上昇とともに気になりだすのが、「におい」だ。数年前、香りの強い柔軟剤への不快感から生まれた言葉「スメルハラスメント（スメハラ）」も、いまや職場が対処する課題にまでなっている。

男性化粧品大手「マンダム」が、2017年5月に行ったネット調査（25～49歳の働く男女1,028人対象）によると、「クールビズシーズンの気になること」では、汗よりも「におい（体臭）」が63%でトップだった。

スメハラの問題は、自分のにおいにはなかなか気付きにくい点にある。そこで、精密機器大手のコニカミノルタは、人間の3つの体臭の強さを各10段階で表示する日本初の機器、「クンクン ボディ」を開発中で、年内の発売を目指している。

3つとは、主に脇の下から出る「汗臭」と、後頭部を中心に発生する「ミドル脂臭」、胸や背中からの「加齢臭」で、センサーを搭載した小型装置で、スマホと無線で接続する。においが出やすい耳の後等に近づけて20秒ほど待つと結果が出る。

◆日用品メーカーの新しいカテゴリー「介護空間の消臭商品」

一方、高齢化に伴う在宅介護世帯の増加により、介護現場における「におい」の問題も顕在化し、皮脂臭や尿臭、便臭などは、特に介護者の大きなストレスになる。そこで、大手日用品メーカーが、介護用に特化した家庭向けの消臭商品を相次いで売り出している。エステーは、17年5月“介護現場の不満・不便を解消する”ブランド「エールズ」を新たに立ち上げた。現在、エールズとして、置型の消臭芳香剤、ふとん消臭スプレー、ポータブルトイレ消臭シートの3つを発売しており、クエン酸や、尿臭や体臭に効果的な消臭香料により、介護空間の臭いを解消できるようにした。介護市場に初参入する白元アースも、同時期に介護用新ブランド「いきいきメイト」を立ち上げた。第一弾は「消臭除菌スプレー」で、介護者を悩ませる不快なにおいと調和させるハーモナイズ香料を採用している。

介護者のサポート拡大は、これからの日本の喫緊の課題で、「介護空間の消臭」という新カテゴリーの、さらなる進化に期待したい。 【秋元真理子】